

当館秘蔵の伊藤若冲筆「達磨図」は修復後、初公開！

2018 年夏季特別展 夏休みスペシャル企画

赤と青のひ・み・つ

聖なる色のミステリー



みみずく土偶 余山貝塚
縄文時代後期(BC1300 年頃)
重要文化財 辰馬考古資料館蔵(撮影:藤森武)

ベス神形容器
エジプト 前7-前6世紀
MIHO MUSEUM 蔵

MIHO MUSEUM (滋賀県甲賀市信楽町、館長:熊倉功夫)は、2018年(平成30年)6月30日(土)～8月26日(日)、夏季特別展「赤と青のひ・み・つ 聖なる色のミステリー」を開催いたします。

当館初！夏休み、大人も子どもも楽しめる体験型展覧会

子ども連れでも美術館を楽しんでほしい。大人も童心に帰って美術品と親しんでほしい。そんな願いを込めた当館初の体験型展覧会です。MIHO MUSEUM コレクションから選りすぐりの世界の古代美術、中世・近世の日本美術を、子どもが大好きな2つの色、「赤」と「青」に分けて展示するという全く新しい試みです。

古くから呪術などに使われていた「赤」、鉱石の入手が難しく憧れの色だった「青」。どちらも信仰と結びつき、“聖なる色”とされてきました。人々が色を手に入れ、美術品に色づけを施した歴史を探っていきます。

伊藤若冲筆「達磨図」、修復によって明らかにされた裏彩色の「赤」

伊藤若冲は、高価な天然顔料を贅沢に使ったことで知られています。また、重ね塗りや裏彩色といった技法を駆使して、丹念に色を差していった作品が多く見られます。特に「赤」においては、若冲の執着とも言えるべき入魂の跡が感じられる作品がありますが、その代表のひとつがこの「達磨図」だと言えましょう。今回の修復によって明らかにされた裏彩色による達磨禅師の真っ赤な僧衣がそれを裏付けています。それは、本展で紹介する、赤い顔料に込められた古代人の精神を引き継いでいるかのようです。

緑豊かな夏の MIHO MUSEUM で、国内外の名品の新しい魅力をお探しくください。

開催概要

◇ 開催趣旨

太古の人々にとって、「色」は自然そのものでした。そして、「色」を何かに施すことは、自然のエネルギーをもってする呪術であり、象徴的な意味を加えることでした。やがて美を意識して彩色するようになりますが、「色」が今日のように、純粹に「彩る」ことのみを目的として使われるようになるのは、中世あるいは近世以降のことです。一方、現代の私たちは自然から離れた場所においても、自然界で目にする以上に多彩な色に触れることができるようになりました。

赤と青は、古代世界においてはいずれも信仰と深く結びつき、“聖なる色”と捉えられていたようです。また、赤と青は、一般的にあらゆる色のなかで最も強いイメージがあるとされる2色であると同時に、一方は動的で他方は静的であるなど、両極の側面を持つ色だとも言えます。

本展では、古代から近世における日本そして世界の美術品に表された赤と青を取り上げ、人々が古より「色」とどのように関わってきたかを考えます。さらに、夏休みスペシャル企画として、おとなも子どもも太古の世界へタイムスリップ!!現代の私たちが見失いかけている“色のエネルギー”を心で感じ取っていただけるよう、様々な体験コーナーやワークショップなどをご用意して皆様をお迎えいたします。



伊藤若冲筆「達磨図」
江戸時代 十八世紀
絹本着色 一幅

- ◇ 展覧会名：夏季特別展「赤と青のひ・み・つ 聖なる色のミステリー」
- ◇ 英語タイトル：Summer session：“Red and Blue: Exploring the World of Sacred Colors”
- ◇ 開催期間：2018年（平成30年）6月30日（土）～8月26日（日）
- ◇ 会場：MIHO MUSEUM
〒529-1814 滋賀県甲賀市信楽町田代桃谷 300 TEL.0748-82-3411
- ◇ 主催：MIHO MUSEUM、京都新聞
- ◇ 後援：滋賀県、滋賀県教育委員会、NHK 大津放送局、
BBC びわ湖放送、エフエム京都
- ◇ 担当学芸員：高橋夕美恵（MIHO MUSEUM 学芸員）
- ◇ 展示総数：約125点（うち重要文化財1点） 赤い作品約45点、青い作品約80点
- ◇ 入館料：一般1100円、高・大生800円、小・中生300円
【20名以上の団体は各200円割引】
- ◇ 開館時間：午前10時～午後5時 【入館は午後4時まで】
- ◇ 休館日：毎月曜日【※7月16日は開館、7月17日は休館】
- ◇ 次回予告：2018年9月8日（土）～10月8日（月・祝）
秋季特別展 I 「アメリカ古代文明—超自然へのまなざし—」

イベント & プログラム

大人も子どもも楽しめる **赤と青**の体験コーナー

毎日のわくわくコーナー(予約不要)

◆赤と青で変身してみよう

古代の人のように赤でフェイス・ペインティングをしたり、青い石のアクセサリーをつけたりするとどんな気分になるのかな？

◆聖なる石を触ってみよう

古代の人たちが、色をつけるために使った赤と青の聖なる石に触れるよ。

◆赤と青を感じてみよう

赤いマントや青いマントを着て、真っ赤な部屋や真っ青な部屋に入ってみよう。どんな気分になるのかな？

クイズラリー(予約不要)

赤と青のひみつのナゾを解くクイズラリーを毎日開催。参加者にはプレゼントを差し上げます。

赤と青、大募集

お気に入りの赤か青のアイテムを持参した来館者には景品を差し上げます。(先着順)

◇ **展示ツアー** “赤と青のひ・み・つ” わくわくどきどき探検ツアー

開催日：7月22日(日)、29日(日)、8月5日(日)、12日(日)、19日(日)、26日(日)

開始時間：各日11:00、13:00、14:00(所要時間約30分) 対象：5歳～高校生

参加費：無料(要予約) 入館料：子どもは無料。引率の大人は2名まで無料。

◇ **ワークショップⅠ** 色石のアクセサリー作り

開催日：7月7日(土)、21日(土)、8月18日(土)

◇ **ワークショップⅡ** パピルス紙のコースター作り

開催日：7月14日(土)、8月4日(土)

※ワークショップⅠ・Ⅱとも

開催時間：午前の部10:30～12:00のうち 午後の部13:30～15:30のうち(所要時間約20分)

対象：小学生以上(保護者同伴の場合未就学児参加可能)

材料費：200円(入館料は別途要、予約不要)

◇ **美術家によるワークショップ** 赤と青のめぐり合わせ

草木染めによる絹の布を使った感性のワークショップ。参加者全員で、様々な夢の回廊を作ります。

開催日：7月28日(土)、8月11日(土)、8月25日(土) 講師：青島左門氏(美術家)

開催時間：13:00～15:00 対象：小学生～大人まで 定員：20名

参加費：1000円(入館料は別途要、草木染の小布つき、要予約)

◇ **高校生の手づくりワークショップ** 草木染めと小物づくり

古代より天然染料として用いられてきた貴重な植物、ムラサキを育てている八日市南高校の学生さんと一緒に、その手づくり染料で布を染め、素敵な小物を作ります。

開催日：7月27日(金)、8月8日(水) 講師：滋賀県立八日市南高校の先生と学生さん

開催時間：午前の部11:30～12:10 午後の部12:20～13:00(所要時間約40分)

対象：小学生～大人まで(小学生は保護者同伴) 定員：各回10名

材料費：500円(入館料は別途要、要予約)

◇ **音楽家によるワークショップ** 色を心で感じて、音で表現する

学芸員による展示解説ツアー／笛のミニコンサート／心笛のワークショップ

演奏／講師：森田梅泉(もりたばいせん・笛奏者・作詞作曲)

開催日① 8/17(金) 13:30～約3時間 子ども対象(小学生～高校生 ※親子での参加も可)

開催日② 8/18(土) 13:30～約3時間 大人対象(大学生含む)

参加費：子ども1,000円 大人2,000円 ※心笛購入5,000円 心笛レンタル300円

展示構成と主な作品

赤 — はじまりの色

1. 古代メソアメリカ—赤い粉の力による異界との交信



ユーゴ
ベラクルス・メキシコ 600-900 年
石、赤色顔料、変性黄鉄鉱

2. 古代中国の煉丹術—不老不死の赤い薬



脚付雲文耳杯
中国 前漢時代
前 206—後 9 年 木(後補)、
漆、青銅鍍金、金、銀

3. 縄文・弥生・古墳時代—いにしえの日本人と赤い粉に託された祈り



埴輪
舞踏人物 古墳時代 6 世紀

4. 日本の赤の女神様—丹生都比売(にうつひめ)と竜田姫



乾山色絵竜田川図向付 10 客
江戸時代 18 世紀 高火度焼成、色絵(上絵付)

5. 平安時代から中世へ—受け継がれる赤を尊ぶころ



根来瓶子
室町時代 14—15 世紀
木製朱漆塗

青 — はるかなる色

1. ラピスラズリ—天空のシンボル、青い石への憧れ



ハトホル形ペンダント
エジプト 前 16—前 11 世紀
ラピスラズリ

2. ファイアンズ—憧れの青い石を創り出す挑戦



河馬像
エジプト 中王国時代
前 21—前 17 世紀 ファイアンズ

3. コバルトの発見—天空の青のガラスの実現



魚形容器
東地中海地域あるいはイタリア
1 世紀 ガラス

4. コバルトの陶器への利用と Blue&White の世界制覇



古染付花蝶文平鉢
中国・明時代 17 世紀
景德鎮窯、染付磁製

5. 日本の青い石の物語—翡翠ロードと青色ガラス



ガラス製勾玉
5—6 世紀

6. 中国の青い石の物語—玉と青色ガラスと空の器



玉琉璃象嵌帯鉤
中国・東周時代 前 4—前 3 世紀
青銅、金箔、銀箔、エレクトラム、玉、
ガラス、水晶

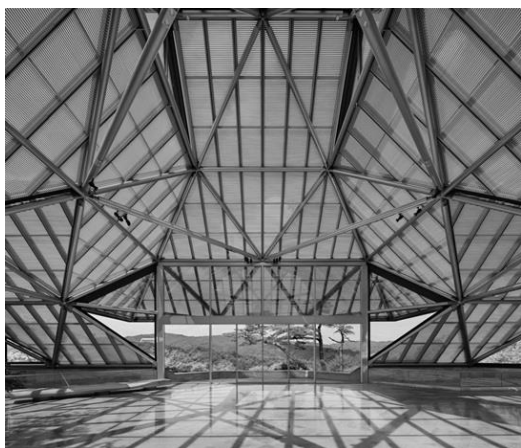
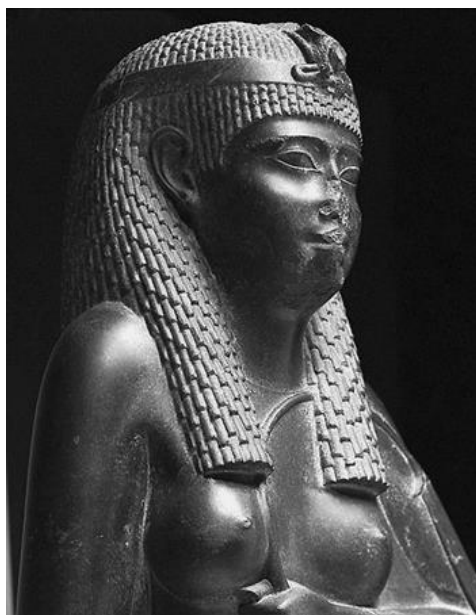
MIHO MUSEUM について



■ **MIHO MUSEUM** は 1997 年 11 月に、琵琶湖の南、自然豊かで風光明媚な湖南アルプスの山中に誕生しました。建築設計は、フランス・ルーヴル美術館のガラスのピラミッド、ワシントンのナショナルギャラリー東館、北京、香港の中国銀行ビル等で世界的に知られる I.M.Pei 氏によるものです。設計のテーマは「桃源郷」。東晋の詩人、陶淵明の「桃花源記」にある仙境の楽園—桃源郷の物語を、構想・設計・建設に 6 年の歳月をかけて、信楽の地に実現したのです。

■ 所蔵品は、エジプト、ギリシア・ローマ、西アジア、中央アジア、南アジア、中国、朝鮮、古代アメリカなどの古代美術と、仏教美術や、茶道美術をはじめ、絵画、漆工、陶磁器などの日本古美術をあわせて、約 3,000 件からなり、季節により国内外からの出陳を加えて、常時 250～500 点を展示しています。

その質の高いコレクションは、ニューヨーク・メトロポリタン美術館、ロサンゼルス・カウンティ美術館、オーストリア・ウィーン美術史美術館、オランダ・ライデン国立古代博物館などで公開され、海外からも高く評価されています。

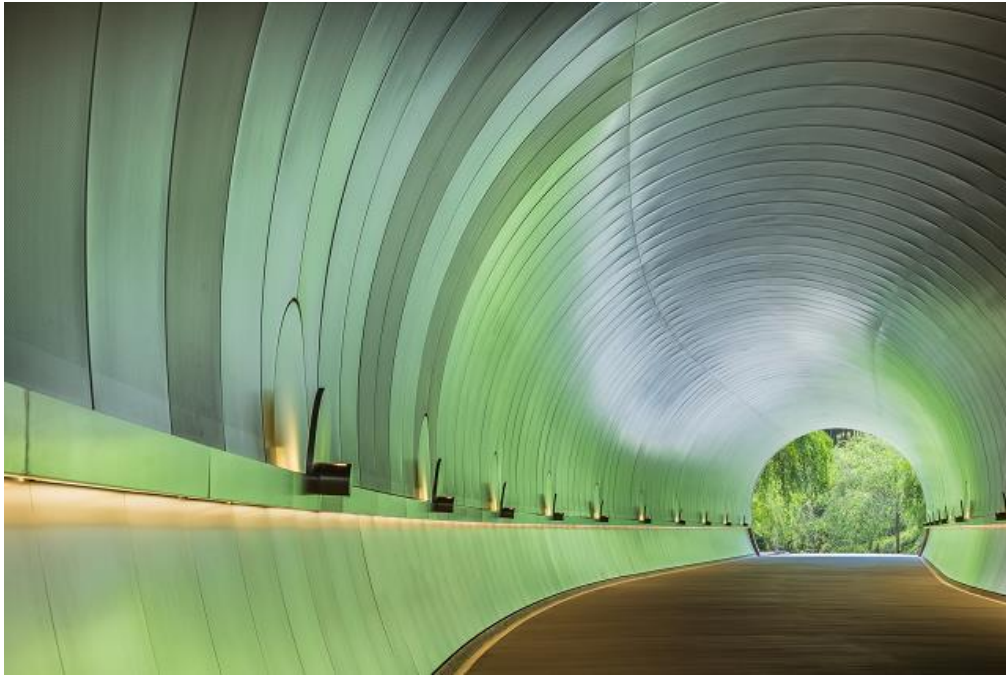


■ 美術館棟は「自然と建物と美術品」「伝統と現代」「東洋と西洋」の融合をテーマに、建築容積の 80%以上を地中に埋設し、建物の上にも自然を復元しています。幾何学模様が織りなすガラス屋根からは、明るい太陽の光が降り注ぎ、訪れる人をやさしく包み込んでくれます。

■ 施設としては、2つのホール、オリジナルグッズをそろえた3つのショップ、無肥料・無農薬の厳選食材を使用したレストラン、喫茶各1店舗があります。レストラン別室では、団体様用の昼食も提供しています。

MIHO MUSEUM は 30 万坪の敷地に、信楽の大自然、建築、美術品、すべてが融合した感動の空間です。





夏には木々の緑色がステンレスの壁に反射し、「緑色のトンネル」になります。

*****報道関係者の本件に関するお問い合わせ先*****

MIHO MUSEUM 学芸部 広報

TEL. 0748-82-3452 FAX. 0748-82-3414 URL <http://miho.jp>

〒529-1814 滋賀県甲賀市信楽町田代桃谷 300